

水環境における台所ストレーナーの開発（その3）

大阪市大生活科学 北浦かほる ○山崎かおる 川崎薫理

大阪市立環境科学研究所 鶴保謙四郎 土永恒弥

（目的）前研究の結果、適正な深さとして3cmと5cmがあげられた。5cmはゴミをためることが前提になっているため、ゴミをためない3cmとは水質汚濁度に差が生じると考えられる。そこで両者の水質汚濁度と使い勝手の差を再度検討することとした。ここでは、モニター調査による使い勝手の結果について報告する。

（方法）昨年調査した集合住宅約100戸で調査Ⅰ～Ⅲを順次行った。Ⅰ；昨年のストレーナーの使用状況を調査し、ステンレス浅型(3cm)とリングを配布。Ⅱ；銅浅型(3cm)を配布。Ⅲ；浅型を浅すぎると答えた人を対象に、銅中型(5cm)を配布。各々1カ月間使用させた後、深さや材質による使い勝手や評価について調査した。

（結果及び考察）約半数が昨年の浅型を継続して使用していた。ステンレス浅型は、7割の人に良いと評価され、水はけ、ぬめり、掃除のしやすさ、ゴミのとれやすさ、流し内の清潔感、底の丸みの全ての項目で好評だった。銅浅型は、酸化して黒ずみが生じたため評価が悪かった。浅型の材質では、ステンレスが好まれた。銅は殺菌作用があるが、浅型の場合手入れが行き届き、ぬめりが付きにくくなるため、銅のメリットが少なかったためであろう。22人中、中型・深型志向が16人と減らなかったのは、ストレーナーにゴミ容器の機能を求めているためであろう。中型は水質汚濁の点でゴミをためる深型と同じで、浅型とは主旨が異なっていたといえる。ストレーナーの位置は固定のされ方への配慮からシンク底より下が良いという意見が多かった。居住者全員を対象とした今後の使用希望調査では、浅型を使いたい人が8割以上で、うちステンレスは7割を占めた。